

1. 県内JAの農福連携の取り組み(全JA調査より抜粋)

令和3年4月1日基準

(1) 県内の取り組み状況

項目	JA数		
	実施している	今後実施予定	合計
農福連携の取り組みを実施もしくは予定している。	8	2	10

(2) JAの取り組み内容

項目	JA数		
	実施している	今後実施予定	合計
①JA(JA出資法人、子会社含む)における農業の生産・加工・調整分野での障害者の雇用	3	1	4
②JA(JA出資法人、子会社を含み、生産部会を除く)における生産・加工・調整段階での障害者就労施設への作業委託	2	1	3
③JAの生産部会における生産・加工・調整段階での障害者就労施設への作業委託	1	0	1
④障害者就労施設と農業者との農作業委託(請負)のマッチング	2	0	2
⑤障害者福祉施設等による農場運営に対する支援(営農指導や人的派遣・紹介など)	0	0	0
⑥行政等による農福連携のためのネットワーク(規約等のあるものに限る)への参画	2	2	4
⑦障害者就労施設の農産物やJAの農福連携商品の販売(農福連携マルシェの開催や市場出荷、直売所等イベントにおける取扱いを含む)	5	1	6

※複数回答あり

2. 各JAの主な農福連携の取り組み内容(令和3年 JA全農にいがた・JA新潟中央会によるJAヒアリングより)

JA名	JA新潟市	JAにいがた岩船
市町村	新潟市	村上市
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ①特別支援学校での稲作体験の実施 ②雑草イネ抜き取りの作業委託 ③福祉事業所との意見交換、農業基礎講習会 ④生産者向け説明会 	<ul style="list-style-type: none"> ①福祉事務所での栽培指導(品目:ネギ、エダマメ) ②JA育苗センターでの播種プラントの苗箱積み重ね作業の委託 ③新米セールでの段ボール作成、箱詰め作業を委託
開始時期	①平成21年 ②令和1年 ③④令和3年	①平成24年 ②③令和3年4月
きっかけ	<ul style="list-style-type: none"> ①支援学校 → JA ②③④ JA → 新潟市あぐりサポートセンター 	<ul style="list-style-type: none"> ①福祉事業所 → JA ②③福祉事業所 → 新潟県信連 → JA
連携先	<ul style="list-style-type: none"> ①県立特別支援学校 ②③④新潟市あぐりサポートセンター → 管内福祉事業所 	<ul style="list-style-type: none"> ①(福)村上福祉会 みどりの家 ②③(福)愛宕福祉会 未来ワークサポートさかまち
感想	農福連携の取組みは何年もかけて地道な取り組みが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ①栽培面積も増加し、良い品を出荷してもらっている。 ②仕事も挨拶もきちりしており、安心して仕事を任せられる。
課題	農業者側が福祉を知る機会が少ないため、農業側と福祉側の交流の機会が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ①面積増加に伴い、除草や防除の作業が遅れることがあり、栽培管理で課題があると感じる。 ②③労働時間が限られるため、施設の稼働時間中は作業してもらえると、仕事をお願いしやすい。
今後の展望	生産者に対し、農業と福祉の連携について理解いただいた上で労働力確保につなげたい。	<ul style="list-style-type: none"> ①福祉事業所の農業経営をサポートしていきたい。 ②「農福連携」を生産者にアピールするため、チラシを作成して配布したい。

JA名	JAささかみ	JA北越後	JA津南町 (津南町ユリ切花出荷組合)
市町村	阿賀野市	新発田市	津南町
取組内容	①精麦作業の委託 ②えだまめ圃場の除草・マルチ除去の委託	米発送用段ボールの組み立て作業の委託	ユリ加工品の生産作業の委託
開始時期	①平成30年頃 ②令和2年6月	令和3年4月	令和3年6月
きっかけ	①JA → 福祉事業所 ②新発田地域振興局 → JA (「おためし農福」の紹介)	福祉事業所 → JA	津南町ユリ切花出荷組合女性部 → 福祉事業所
連携先	①(福)阿賀北総合福祉協会 ゆうきの里 ②(福)とよさか福祉会 クローバー他	(福)のぞみの家福祉会 新発田地域生活総合支援センター さんさん館i(アイ)	(福)つなん福祉会 すみれ工房
感想	①JAからの働きかけに応じて感謝している。 ②今では福祉事業所との連携がないと管内のえだまめ栽培は成り立たない。	とても丁寧に段ボール組み立ててもらっている。	福祉事業所側で作業効率向上の工夫をしてくれている。作業スピードも品質も問題なく助かっている。
課題	①JAから貸し出している精麦機の規模的に1日で作業できる量が少ない。 ②事業所のスケジュールの都合でこちらの希望通りの作業日とならないこともある。	今のところ、特に課題となることはない。	作業面では特に課題となることはない。
今後の展望	①他の作業の委託も検討中である。 ②既にえだまめ以外の品目の除草もしてもらっており、園芸全般に農福連携を波及させたい。	JA直売所でPB商品の販売をするようになったら、袋詰めやラベル張りなどをお願いしたい。	加工品の種類を増やし、他の福祉事業所へ作業委託を増やしていきたい。

JA名	JAえちご上越	JA全農にいがた
市町村	上越市	新潟市西区 (JA全農にいがた 園芸実証ハウス)
取組内容	えだまめのサテライト選果所を福祉事業所に設置して選果作業を委託	福祉事業所職員および利用者の農作業体験の実施
開始時期	令和3年7月	令和3年7月
きっかけ	福祉事業所 → JA	新潟市あぐりサポートセンターとの打ち合わせを踏まえ実施
連携先	(一社)土の香工房 ソーシャルファームドリーと緑の風	新潟市あぐりサポートセンターおよび各福祉事業所(7施設)
感想	高田地区のえだまめの選果をしてもらい助かっている。 委託作業の内容も料金も他のサテライト選果所と同額でお願いしている。	ミニトマトの芽かき・収穫、パプリカの収穫などの体験について滞りなく作業が行われており、今後の農福連携の可能性を感じた。
課題	作業面では特に課題となることはない。	実際の農作業受託にどう繋げていくか。
今後の展望	今後も継続的に作業委託をお願いしたい。	1年間を通じ、計画的に作業に参加してもらい、農作業受託の可能性を広げてもらいたい。また、この取り組みを農業者に知ってもらうことで、農福連携の理解醸成に努めたい。